

札幌市議団ニュース

2012年3月2日 No.52

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

第1回定例議会 予算特別委員会・論戦特集 ①

<宮川 潤 議員>

貧困が深刻化する中、市営住宅の家賃減免の縮小はすべきでない

白石の姉妹孤立死事件に象徴されるように、いまの政治の重要課題のひとつが、貧困・孤立対策だとして、**宮川議員**は市営住宅家賃減免制度の縮小問題を取りあげ、「市営住宅入居者の貧困化・所得の低下があるのではないか。家賃の減免世帯・減免金額は増えていないのか、家賃の滞納額も増えているのか」と質問しました。

浦屋住宅担当部長は「家賃の減免金額も、減免世帯も増えているが、滞納額は減っている」と答弁

宮川議員は「家賃の減免世帯・減免金額は増えているが、滞納額は増えていないということは、所得が減少していく中、減免制度がうまく機能しているということだ。しかし行財政改革推進プランで家賃減免の縮小を行なって、現在の平均6450円を10690円に引き上げれば、低所得者からの負担強化(4億円)になるから、滞納する世帯が出てきて、調停になる入居者が増えるのではないかと質しました。

浦屋住宅担当部長の「調停になる入居者が増えるかどうかは把握できない」と答弁に対して、**宮川議員**は「家賃を滞納して調停するというのは強制退去の一手手前。退去させられた人が、他に住めるところがあるでしょうか。家賃を取り立てるだけでなく、調停・退去になる前に手を打つことが重要だ、それが都市局の役割ではないのか。貧困が広がり、深刻化している中で、“4億円確保ありき”で家賃減免の縮小をすべきではない！」と迫りました。

古い市営住宅の寒い風呂場／ユニット化 ぜひ

次に**宮川議員**は「古い市営住宅では、風呂釜の一部が壁の穴から壁に突き出す形になっている。風呂釜と壁のすき間から冷たい風が吹き込み、浴室が寒い。伏古団地では、近くの銭湯が閉鎖したため、高齢者が寒い思いをして入浴しなければならない。計画的にユニットバス化すべき」と質しました。

浦屋住宅担当部長は「古い市営住宅の風呂場は寒く、望ましい状態とはいえない。ユニットバス化した団地では『よかった』といわれている。建て替え・修繕の計画があり、伏古団地は2016~20年に建て替えを予定している」と答えました。(2012.2.29)

<伊藤理智子議員>

市民や業者に喜ばれる住宅エコリフォーム事業の充実を

住宅エコリフォーム事業 開始からの推移

⇒裏面につづく

年 度	予 算	申請数	工事総額
2010 年	1500 万	43 件	2 億 4000 円
2011 年	1500 万 追加 1000 万	73 件 追加 74 件	3 億 1800 円 追加 2 億 7400 円
2012 年	1 億円		

伊藤議員はこの問題（図表）を取り上げ、「住宅エコリフォーム事業が市民にも浸透し、申請件数も増え、新年度の予算も 1 億円に大幅増額され、産業連関表による経済効果も 32 億円を見込んでいる。この間取り組んできた事業の評価と予算を 1 億円に増額した考え方」を質問しました。

浦屋住宅担当部長は「申請数 147 件、補助額 3900 万円、市内業者への発注額は 8 億 3000 万円となり、経済効果があったと認識している。また 24 年度の予算額を 1 億円に増額したのは、今年度の申請状況や付帯して発生する工事費が非常に高い経済効果を期待できるので、大幅増額をした」と答弁。

伊藤議員は、答弁に対して「『経済波及効果があった』というのであれば、新年度、申し込みが多数となった場合には、補正予算を組むことも考えておくべき。市民や業者に喜ばれる施策を積極的に展開し、経済を活性化していくことが重要ではないか。そのためにも、対象事業の拡大や中小零細企業も対象にするなど条件を緩和し、使い勝手のよい制度とすべきと考えるがどうか」と質しました。

浦屋住宅担当部長は「今年度の申請受付は 5 月と 9 月の 2 回と考えているが、秋に 3 度目の募集というのは、補助のための国との協議、事業の実施期間が必要で改修が実際には行えないということもあるので、現状では補正の考えはない」との答弁にとどまりました。

伊藤議員はさらに、補助事業の利用者アンケート調査に触れ、『希望したしたが締め切られた』『補助枠を拡大してほしい』『ソーラーシステム、風力・地熱発電などの拡充をしてほしい』との要望がだされている。今後、こうした要望を受けて、どのようにすすめていくか」と迫りました。

浦屋住宅担当部長は「さらに予算枠などの拡大を行ない、また来年 24 年度は利用者の声も聞いて、利用しやすい制度に充実させていきたい」と答弁しました。(2012.2.29)